

Q. 「Exchange Online」には、**ユーザーが削除したメールを管理者が「検索/監査（閲覧）」できる機能はありますか？**

A.はい、「Exchange Online」の「訴訟ホールド」機能を使うとユーザーが削除したメールは管理者用の領域に保持され、管理者側で検索/監査できます。ユーザー自身は削除したメールは見ることはできません。

「Exchange Online」の「訴訟ホールド」機能が利用できるプランは以下の通りです。

- 「訴訟ホールド」機能が利用できるプラン
 - Exchange Online Plan 1 + Exchange Online Archiving
 - Microsoft 365 Business Basic + Exchange Online Archiving
 - Microsoft 365 Business Standard + Exchange Online Archiving
 - Microsoft 365 Business Premium
 - Exchange Online Plan 2
 - Office 365 E3
 - Microsoft 365 E3
 - Microsoft 365 E5

「訴訟ホールド」が利用できるプラン」ライセンスを該当ユーザーに割り当て、訴訟ホールドの有効化を実施した後からの保持となります。

「訴訟ホールド」の有効化前の削除済みメールは保持されませんので、注意してください。

◆[参考] 訴訟ホールドを作成する

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/compliance/ediscovery-create-a-litigation-hold?view=o365-worldwide>

Q. 「訴訟ホールド」機能は、メールを保持、監査したい一部のユーザーにだけ割り当てをして使えますか？

**A. はい、「訴訟ホールド」を有効化するユーザーだけにライセンスを割り当て利用
できます。**

Exchange管理者はExchange管理画面で「インプレース電子情報開示」で、メールを検索/監査できます。
メールの監査、検索に関する詳細情報は以下の公開情報をご確認ください。

◆[参考] Exchange Online のインプレース電子情報開示

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/exchange/security-and-compliance/in-place-ediscovery/in-place-ediscovery>

Q. Azure OpenAI Service で **GPT-4** を利用する方法を教えてください。

A. まずは Azure のサブスクリプションを申請・発行することが必要です。

まずは Azure のサブスクリプション新規登録を申し込んでいただき、アカウントが払い出されるとお客様の Azure 環境が用意され、Azure OpenAI Service などの各種サービスを使い始めていただくことが可能となります。

ただし、Azure OpenAI Service は「Microsoft の責任ある AI へのコミットメントの基本原則」に従い、別途利用申請が必要です。サブスクリプションが払い出された後に、下記ドキュメントに記載の方法で申請いただきます。

◆[参考] Azure OpenAI Service とは - Azure OpenAI にアクセスするにはどうすればよいですか？

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/cognitive-services/openai/overview#how-do-i-get-access-to-azure-openai>

さらに、GPT-4 の利用に限り、上記申請が承認されたのちに下記URLの GPT-4 プレビューのウェイトリストに登録する必要があります。

Application ID には、Azure OpenAI Service の申請時に受け取ったメールに記載されている番号を入力します。

登録後、順番が来ると GPT-4 の利用も承認・許可され、Azure OpenAI Service に GPT-4 をデプロイできる状態になります。

◆[参考] Azure OpenAI GPT-4 Public Preview Waitlist お客様のデータに誰がどのような条件でアクセスできるか：

<https://aka.ms/oai/get-gpt4>